

こもれび通信 前期号

児童発達支援センター あすなろ学園 発行責任者：細谷育男

「4か月が経ち…」

事務局長 町田 正義

あすなろ学園は児童発達支援センターとして地域の中で中核的役割を果たすため、今年度から入園条件を緩和し、併用通園を実施すると共に対象年齢を早期療育の観点から「2歳児から就学前」としました。

新年度のクラス名はお水が大好きな動物の名前で、あしか、らっこ、いるか、くじらです。子ども達は入園から4か月が経ち、すっかり学園に慣れ毎日楽しそうに、園庭や教室を駆けまわり、元気に過ごしています。

6月の下旬からプールが開始し、子ども達は水しぶきを上げてクラスの名前の動物の様に元気に水遊びをしています。

6月の親子で遊ぼう集会では、お父さんとお母さんと一緒に元気いっぱい、たっぴりと遊んで全員の笑顔が弾けていました。これからもご家族とともに子ども達の成長を支え、見守っていききたいと思います。

また、あすなろ学園では通園事業とともに地域支援事業に力を入れ、子どもの発達や子育ての悩みなど保護者の相談とともに、保育園、幼稚園などへの訪問を通して、先生や保健師の方々と共に支援を行い、児童発達支援センターとして、職員一同さらに努めてまいります。

「療育に通う保護者の皆さまに向けて」

地域支援課 職員

子育てをしていると、できていないことや気になることに、目が向いてしまうことはありませんか？親子通園では、わが子の視線や表情、遊び方、興味の向く先にゆっくりと目を向け、その子ならではの魅力や成長と一緒に探り、見つけていく時間にしてほしいなあと考えています。

そこで私が大切にしているのは、わが子のその子らしさを見つめることです。毎日の活動の中で見せる姿にはその子らしさがたくさん詰まっています。「できた！」という瞬間はもちろん、その過程で大人がどんなふうに関わったかにも目を向けながら、今大切にしたいことを一緒に探していきたいです。

そして、保護者の皆さんが、ほっと一息つき想いを分かち合える場を作っていきたいとも考えています。同じように子育てに奮闘する仲間と出会い、悩みや不安を打ち明けたり、喜びや感動を共有しあえる場でありたいと感じています。

親子通園が、わが子の成長と一緒に喜び合える場所となり、少し肩の力を抜いて子育てに向き合える時間になるよう、丁寧に関わっていききたいと思います。そして、親子であそび合う中で、褒めることも大切にしながら、それぞれの強みや良いところを見つけていきましょう。



～親子遊び・親子通園での活動特集！～

～はじめに～

幼児期の親子遊びは、特別な道具がなくても、日々の生活のすぐそばにたくさんの“遊びの種”があります。新聞紙を丸めてボールにしたり、ちぎって紙吹雪にしたり、お風呂ではスポンジで泡をたっぷり作って洗っこ。夕食づくりでは、餃子やハンバーグのひき肉をこねこねする時間も立派な感触遊びになります。こうした昔ながらの遊びは、親子が自然にふれあい、子どもの五感や想像力を豊かに育ててくれます。忙しい毎日の中でも、生活のひとこまを少しだけ“遊び”に変えてみることで、親子の笑顔が増えるきっかけになればと思います。

今回の特集では、各クラス担任が、療育の現場で実際に行っている親子通園時の活動や、親子で楽しめる活動をご紹介します。職員がどのような思いやねらいを持って親子通園での活動を考えているか、皆さんに知っていただければと思います。

施設長 細谷 育男

あしかクラス担任

親子通園では、大豆やスライム、片栗粉、春雨、寒天など、さまざまな感触遊びを行っています。その中でも、子ども達と大人が一緒になって盛り上がったのが、片栗粉遊びです。片栗粉は、水の量によって「サラサラ」から水を含んだ「コロコロ」、そして不思議な「トロッ」とした状態へと質感が変化します。一人ひとり好きな感触が異なり、自分に合った心地よさを見つけながら楽しむことが出来ます。また、学園では汚れることを気にせず、思い切り遊べる環境を大切にしています。タライいっぱいの片栗粉に手や足を入れたり、全身で感触を味わったりしながら、五感を使って楽しむ姿がたくさん見られました。感触遊びは、感覚を豊かにするだけでなく、「触ってみたい」「やってみたい」という気持ちを育む活動でもあります。これからも子どもたち一人ひとりの興味や意欲を大切にしながら、親子で笑顔になれる遊びを取り入れていきたいと思っています。

いるかクラス担任

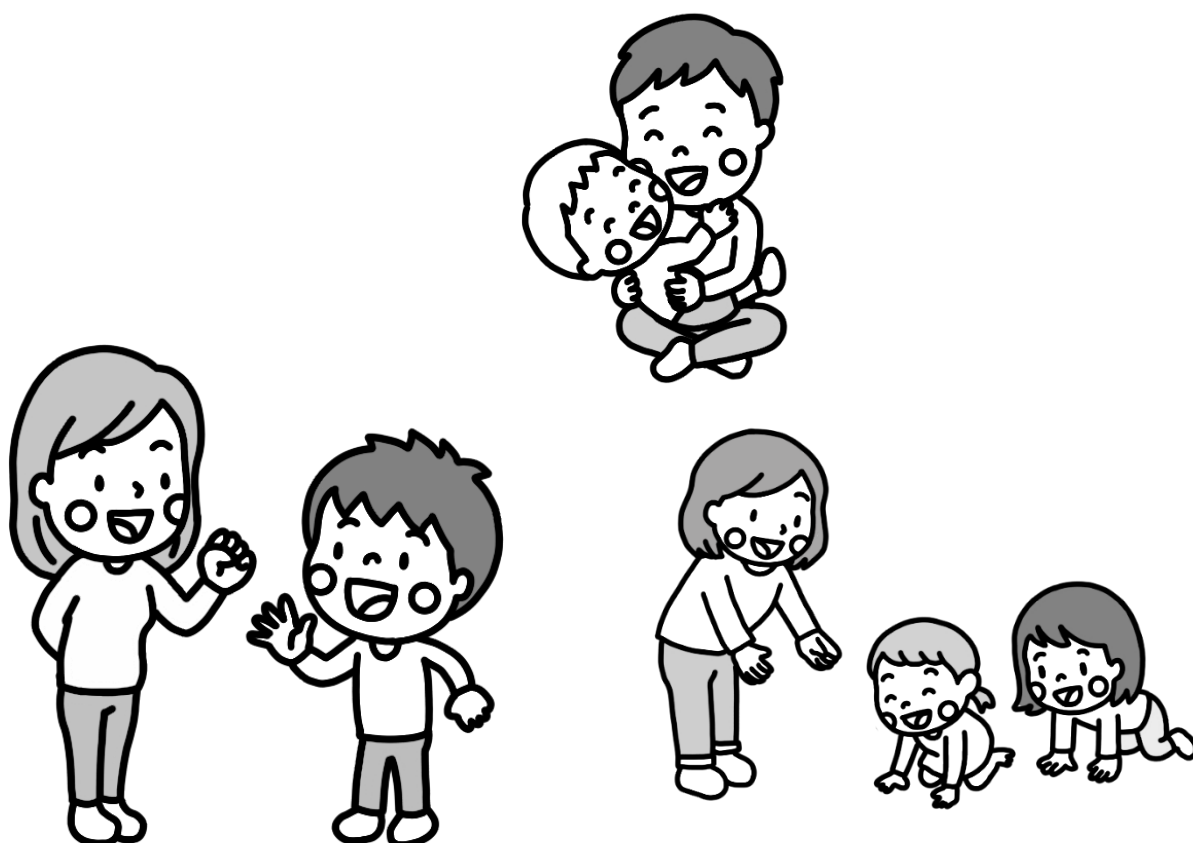
今回ご紹介するのは『接触遊び』です。接触遊びと聞くと、赤ちゃんとの遊びや、少し単純な遊びを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。しかし、子どもたちにとって接触遊びはとても魅力的な遊びの一つです。例えば一本橋ちょちょちょでは、“いつくすぐられるのかな？”と期待に満ちた表情を見せ、満面の笑みと大きな笑い声があふれます。また、ダイナミックな接触遊びも大人気です。しまうまぐるぐるの曲に合わせて抱っこでぐるぐると回る遊びでは、回転する感覚を味わいながら、最後はぎゅっとハグ。大切な笑顔のやり取りタイムになっています。そんな接触遊びには2つの目的があります。1つ目はボディイメージを育む効果です。子どもたちは身体の様々な部分に触れられることで、顔や手足など身体の部位を意識できます。2つ目は、“もっとやりたい”意欲を育みます。笑顔を引き出す大人の関わりは、“人と遊ぶって楽しい”気持ちを豊かにし、“もう一回”と大人に気持ちを伝える機会になっています。楽しいだけではなく、心や身体、そして人とのつながりを育む接触遊び。ぜひご家庭でも親子で楽しんでみてください。

らっこクラス担任

昨年実施した2クラス合同で行ったミニ夏祭り！！魚釣りや太鼓、盆踊り…。プレイルームには、約1か月前から親子通園の中で製作してきたジュース、たこ焼き、クレープなどが並びました。子ども達は職員手作りのお金を握りしめ、「これくださいー」とお買い物ごっこを楽しみながら、様々なゲームに参加していました。当日の楽しさの背景には、夏祭りに向け積み重ねてきた準備の過程があったからです。親子通園では、1日限定の活動やクラスごとの活動だけでなく、一つの活動に継続して取り組んだり、クラスの枠を超え、みんなで一つのものを作り上げたりする経験も大切にしています。約1か月にわたって準備を重ねてきたことで、当日の楽しみや期待感はより大きなものに。日々の生活の中でも、一つの遊びや活動を繰り返して楽しむ体験が、子ども達の「やりたい！」「楽しい！」につながるのかもしれません。

くじらクラス担任

保護者の皆さんが親子通園をしている中で、朝の会では我が子がどんな反応をしているのか、何が好きなのかなど、考えながら参加している方が多いかと思います。私が日々朝の会を行う中で意識していることは、①子どもたちが大人や提示物に注目できるような内容を展開すること、②椅子に座って見る・聞くだけでなく、子どもたち自身が体験できるようにすることです。その中で、私が今回皆さんにご紹介したいのは、バランスボールと手遊びです。バランスボールでは、座る・弾む・体勢を保つなどの動きを通して、体幹やバランス感覚を養うことができます。曲を流し、楽しみながら全身を使うことで、姿勢保持や運動能力の向上に繋がります。手遊びでは、歌やリズムに合わせて手や指を動かします。手指の細かな動きや模倣する力が身に付き、大人や友達と同じ動きをすることでコミュニケーションの土台作りにも繋がります。朝の会で取り組む機会があった際は、我が子の表情に注目してください。もし、子どもがよく注目している手遊びを発見したら家でもやってみてください。5分でも家で向き合える大切な時間になります。



～あの頃の親子時間～

“親子遊びってなんだろう？”・“親子のやりとりってなんだろう？” そう考えた時、実は日常の中にたくさんのヒントが散りばめられていることに気づかされます。先日、職員同士でそんな話をした際、退園された親子の姿を思い出しました。ここでは、そんな当時の温かいエピソードをご紹介します。

《お兄ちゃんがウクレレに挑戦！》

移動手段はずり這いが中心、自力座位はまだ難しい M ちゃん。チョロミーと童謡を聴くことが大好きで、「お母さんといっしょ」のテレビ番組をお母さんの膝に座って見ることが日課になっていたようです。ある日、お迎えにお母さんと一緒に来たお兄ちゃん、担任のウクレレ演奏を聞きながら楽しそうに体を動かしている M ちゃんの姿を見て、自分もウクレレを弾いてあげたい！と思ったとのこと。それ以来、毎日練習。そして夕食後、お兄ちゃんがウクレレを演奏し、お母さんが歌うことを取り入れていったようです。M ちゃんを中心にみんなで楽しむ合家族の温かさを感じました。（※クラスみんなの前でもウクレレを披露してくれました！）

指導室 職員

《水好きが食器洗いへと進化！》

とにかく動きたい、走りたい、揺れていたい、そんなエネルギーにあふれていた H くん。端から端まで教室を行ったり来たりと絶えず走り回っている姿に、“シャトルランしている”と名づけるユーモアのあるお母さん。そんな H くん、水が好きで、大人のしていることに興味をもっていると感じた担任は、給食用のおしぼりをしぼる手伝いを任せるように。その時に見せる真剣で、得意気な表情が印象的でした。

家庭でも、大好きなお母さんがやっている家事をよ～く見ていました。“それなら”とお母さんは、まずは食器洗いのすすぎ方を見せながら教え、徐々に洗剤洗いとすすぎ洗いをするまでに。「床が水浸しなんです」とお母さんは言いながらも見守り、だんだんと上手になってきたと聞いています。今では夕食後の食器洗いは、本人の毎日のお仕事になっていると聞いています。

本人にしてみれば、好きな水に触れながら、家族みんなに褒めてもらい、うれしさに違いありません。

家族の一人として働くこと、役割を担うこと、教え教えられる中で親子の関係性をよりつくっていること、好きを活かすことで楽しく継続しているなど、いいこと満載！！

指導室 職員



《公園直行！体を動かす大切さ》

ドアの開閉が大好きな男の子。自分で開け閉めすることはもちろん、自動ドアの動きを1日中眺めていられるほど夢中でした。でも、この男の子、身体の使い方が幼く、危なっかしい面があったのです。だからこそ、“学園以外でも身体をしっかりと動かす機会を”とお母さんが考え、公園遊びを日課にすることに。学園バスを降りたら公園へ直行！本人のペースで遊んだり、お母さんも一緒に遊具に取り組んだり、楽しく身体を動かす時間を大切にしてきました。目的を持って継続してきたことや楽しみながら取り組んできたことで、親子の絆はより強いものに。「身体がしっかりしてきた、親子で楽しめる時間を共有できてよかった！」とお母さんが語っていたのが印象的でした。

指導室 職員

《こねて まるめて おいしくなあれ♪》

粘土遊びが大好きな A くん。道具を巧みに使い、1時間以上も平らに伸ばしたり、三角や星など様々な形に作り上げていました。その集中力と創造力、繊細な指先に感嘆していましたが、お母さんから「家でも粘土遊びばかりで……」と、ため息混じりの相談を受けました。

そこで彼の力を別の活動に活かせないかと提案したのがクッキー作り。元々お菓子作りが趣味なお母さんは、生地を伸ばし成形する、チョコやパウダーで装飾するなど「一緒に楽しく遊べました」と表情も明るくなりました。

同じ遊びの繰り返しに見えても子どもたちは着実に力を蓄えています。でも変化をするには少しのきっかけが必要だったりもします。これからも“好き”を活かしながら、世界を広げるお手伝いをしていきたいです。

指導室 職員

～専門職の先生に聞いてみました～

親子で関わり合うことの大切さ

「親子での日々の触れ合いやコミュニケーション」をテーマに、専門的視点として普段から子どもたちを見てくださっている専門職の先生にお話を聞きました。

「上手に関わらなきゃ」と肩に力を入れず、親子で笑顔になれる関わりのヒントとしてお役立てください！

「親子で五感を発揮して楽しむ身体遊び」

～作業療法士～

遊ぶ事は大人も子どもも楽しいものです。幼児期は人間形成の基礎を育む大切な時期で体を使って遊びこむことは重要です。運動遊びをする時、大人は「正しいやり方」や「ふつうのやり方」にとらわれがちです。もちろん療育をする上で指導者はその視点で発達を支援することもあります。しかし、親子で運動遊びをする時は、子どもを「遊ばせる」のではなく、「親も一緒に楽しむこと」が大切だと考えます。親子での運動遊び・接触あそびの目的は子どもが「もっと遊びたい」「もっとやりたい（やってほしい）」と思うことそのものです。ぜひ、正しさや訓練は学園の先生や訓練先の先生にお任せして、親も子も楽しんで身体を動かしてほしいと思います。子どもにとっての運動は、「腹筋をつける」というような単体ではなく、視覚・聴覚・触覚など五感を総動員して楽しむことです。幼児期のこの時にしか味わえない楽しい遊びを、親も子も五感を発揮して体感してほしいと思います。

「日々の関わりから『伝えたい』を育むヒント」

～言語聴覚士～

ことばを育むためには何が必要なのでしょう？

お子さんがたくさん話せるようになる、私たちに伝えたいことを話してくれる。どのお母さんもそれを願っていらっしゃると思います。そのためにまず必要なことは、自分が伝えたいことをこうやれば伝えられる！と気づく体験です。わたしたちが伝えたいことを受け取ってもらう、理解してもらうなど、こちらが先の願いになりがちですが、まずはお子さんが自分の力で、自分のタイミングで願いを伝え、自分の願いを叶えることです。そのためには、大人は願いを先回りしてやってあげるのではなく、「ちょうだい」のサインやことばで伝えることを練習したり、欲しい物を「指差し」で伝えられるようにお手伝いすることが必要です。子どものコミュニケーションの発達は真似から始まります。大人が見本を見せてそれを真似してもらうことで自分のコミュニケーションのスキルが増えていく。そんな意識でお子さんと日々関わってみましょう。

～編集後記～

今号の特集はいかがでしたでしょうか。専門職の先生方の「お家では訓練ではなく、親も一緒に楽しんで！」「先回りせず子どもの『伝えたい』を待とう」というメッセージ。そして、各クラスの職員が紹介した、片栗粉の感触遊びやちょちょよなどの接触遊びの実践。これらすべてが、子どもの五感を刺激し、心の根っこを育てる大切な“遊びの種”であるという事が分かりました。

特別な準備がなくても、日常のすぐそばに楽しい瞬間はたくさん転がっています。肩の力を少し抜いて、お子さんと一緒に「楽しいね！」を五感で共有する。そんな日々の1コマを、あすなろ学園はこれからも皆さんと一緒に大切に育んでいきたいと思っています。（担当：山本）